



令和7年 最終号 NO.71



ネパール・ミカの会

令和7年6月30日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36



「この二十数年、信じられない月日であったと感じます」

齋藤 謹也



「ネパールに行こう」から始まり、「せっかくだからお釈迦さんの誕生地ルンビニに行ってみよう」で行程が決まり、そして入国。聖地公園に入る直前、「ここに学校ってあるの？」と何気なく聞いた時「あそこにあるのも学校ですよ」と言われ立ち寄った建物の中で、雨漏りで溜まった水たまりを避け、ぐるりと集まり学ぶ子供達。ビックリした目で私達を見る。その目が皆キラキラしている。

つい、「この屋根を修理してあげる。」と約束して帰国。それから募金活動。そして雨漏り校舎支援の旅が企画された。キラキラした「眼」。そこからネパール語の「ミカ」の字をつけて「ミカの会」の発足。

修理にあたった村人から、「私たちの学校はもっと貧しい。次は私たちの学校にも援助を…」との声。その声に答えボランティア貯金から補助を受けての第二の学校支援の旅。その旅では三校を支援しました。

学校から学校へと移動する中、カトマンドウ、ポカラ、ルンビニ〜コースから何か別に寄ってみてはと思いつき、地図をたどるとポカラ〜ルンビニ間の街道沿いにある古都市タンセンという町を見つけた。そこに立ち寄る事として泊まった宿（そこで見た満天の星…）の隣にある建物が理系の大学だという。

そこに立ち寄った所、図書館に多くの学生たちの姿があった。蔵書が少ないにもかかわらずキラキラした「眼」で受付に群がる青年たち。つい、「一度には出来ないが、毎年少しずつ理系の専門書を援助するから、欲しい本のリストを作って」と言ってしまった所から始まった図書支援。

出会いの時、ただちに判断して決定していった身軽な私たちの姿勢はその後も変わることなく続いたように思います。

支援するなんておこがましいことではなく、困っている相手の立場に立って必要とするものをその時出来る範囲で無理なくやりましょと続けてきました。

そして、ラマさんとの出会いもこの活動の大きな柱となりました。年を重ね、振り返ってみれば、けっこうな「重さ」をもったの支援となったように思われます。

「持続」をするという事で法人格を持ちましたが、ネパールの社会状況の変化、コロナなどの影響、それよりも理事をはじめ、会員の高齢化、会員数減少、若年層の少なさもあって、身軽さが身上の私共の会も些かきつくなりました。

そこでこの際 NPO の法人格を返上して「重さ」をはずしたいと決意するに至りました。

つながりがひろがりになり、又、少し手綱をゆるめて、と考えております。

長年にわたりご支援いただいた方々に感謝申し上げますと共にせつかくのキズナを続けたいとも願っております。

ありがとうございました。今後ともよろしく。

平成7年5月24日 通常総会開催

通常総会において第3号議案 特定非営利活動法人の解散及び清算人の選任が可決されました。この決定に従い司法書士に依頼し東京都に解散届出書を提出致しました。総会議事録は同封しております。



ルンビニ・マズワニ中学校の改修そしてラマ理事のふるさとの小学校に制服そして運動靴のプレゼント。28年間のミカの会の最後の支援となりました。子供たちの笑顔が嬉しい。

感謝の気持ちをお伝えするために文章を書くと、皆様への温かいお気持ちと深い感謝の気持ちで胸がいっぱいです。ミカの会は、ネパールのルンビニ、タンセン、そしてカトマンズにおいて、28年近くにわたり、前向きな変化をもたらす素晴らしい力となってきました。皆様の揺るぎないご支援は、数え切れないほどの子どもたち、家族、そして地域社会の人生を変えてきました。この道のりに携われたことを光栄に思います。

皆様のご支援のおかげで、学校や図書館の建設、制服や学用品の提供が可能になりました。これらの取り組みの一つ一つが、ルンビニの子どもたちに教育、成長、そしてより良い未来への機会を提供してきました。

皆様の惜しみないご寄付のおかげで、ルンビニの子どもたちはもはや教育を受けるために長い距離を歩く必要がなくなりました。皆様のご支援によって建設された学校のおかげで、子どもたちは安全で設備の整った環境で授業を受けることができ、これらの学校は多くの若者の未来を築く基盤となっています。教育を受ける機会は、多くの子どもたちの人生を変え、夢を追求するためのツールを提供してきました。

皆様のご支援を賜りました図書館は、この教育の歩みにおいて、極めて重要な役割を果たしてきました。本で満たされたこれらの空間は、生徒たちが学び、探求し、成長するために集う安全な安息の地となっています。これは単に学業成績の向上にとどまらず、生涯にわたる知識への愛を育むことにも繋がります。多くの子どもたちにとって、図書館は身近な環境を超えた新しい世界への入り口であり、そうでなければ手の届かなかったであろうことを想像する機会を与えてくれます。

物理的なインフラ整備に加え、皆様からご提供いただいた制服や学用品は、子どもたちの力となる上で重要な役割を果たしてきました。皆様からご提供いただいた学用品（本、ノート、鉛筆、ペンなど）は、ご家庭の負担を大きく軽減し、すべての子どもたちが学習を成功させるために必要な道具を得られるよう支援しています。

ミカの会が長年にわたり成し遂げてきたことを振り返ると、深い感謝の気持ちでいっぱいです。皆様のご支援は、多くの人の人生に影響を与え、その好影響は未来の世代にも受け継がれていくことでしょう。皆様のご支援の恩恵を受けた子どもたちは、教育を受けるだけでなく、彼らは、自分自身と地域社会のより良い未来を築くためのスキルと機会を身につけています。

今回日本を訪問し、多くの皆様と直接お会いできたことは光栄でした。訪問中に感じた温かさや優しさは、私たちが共有する家族の絆を強めるものでした。ミカの会は私にとって単なる組織ではなく、家族のような存在であり、皆様一人ひとりを大切な友人だと思っています。時が経ち、皆様の中には以前ほど積極的に組織に関わっていない方もいらっしゃるかもしれません。人生は変化し、多くの方が年を重ね、亡くなられた方もいらっしゃるでしょう。しかし、距離や変化はあっても、ミカの会の遺産はネパールの子供たちの中に生き続けています。

このことを念頭に、皆様がネパールを訪れていただくことになりましたら声をかけて頂くよう、心からお誘い申し上げます。ご無理は申し上げませんが、皆様の長年のご尽力とご支援の成果をお見せできれば光栄です。皆様の寛大なご支援によって栄えてきた学校、図書館、そして地域社会を、皆様は直接ご覧になることでしょう。そして、このすべてを可能にした方々にお会いすることは、子どもたちと地域社会全体にとって、大変大きな意味を持つことでしょう。ネパールの人々を代表し、皆様一人ひとりに、この地の子どもたちの教育と福祉への並々ならぬご尽力に感謝申し上げます。皆様がもたらした変化は、皆様のご支援くださった建物の建設にとどまらず、皆様のご支援の恩恵を受けたすべての生徒たちの心にも刻まれています。皆様の功績は、これからも輝き続けるでしょう。ミカの会がネパールの人々に示した友情と寛大さに、私はいつまでも感謝の気持ちでいっぱいです。



平成7年1月11日（土）新年会がネパールレストランで賑やかに開催されました。

「人の手から人の手へ」

植草 光子

人の手から人の手へ。ミカの会は斎藤理事長から始まり、ネパールの子供達と日本人を結びました。そしてネパールの教育を変えただけでなく日本人をも変えました。ネパールの人達は貧しくとも、家族を愛し、隣人を愛し助け合う民族です。そしてその恩を感謝として返して下さり私達は幸せになりました。

日本人もかつてはそうでした。貧しいが故に人々は助け合い慰め合いました。戦後日本人は貧しさからの脱却で経済成長を遂げ、豊かになりました。しかし、豊かさは一人ひとりを結び付けず孤立させました。助け合い感謝し合う、愛し合う心を失ったように思います。だからネパールの人達との交流で互いを必要とし合う関係を築いて来たのだと思いました。ネパールはこれから豊かになると思います。でもこの心は失って欲しくないと思うのは勝手でしょうか？

14年前に私達夫婦はネパールに智子学校を建設しました。今でも智子の誕生日に写真を添えて感謝の心を伝えてくれます。私はネパールを支援しているようで実は心を支えて貰っていた気がします。大切なのは心の繋がりとこのネパール・ミカの会の理事をさせて頂き学びました。

長い間ご奉仕して下さった理事に比べ私は新参者でたった7年でした。でも温かく迎えて大切に下さった事本当に有難う御座いました。



ラマ理事の来日歓迎会に先立ちグランベリーパークの見学。その後、武さんのレストラン「シャンティ」でカレーランチで歓迎会。短い時間でしたがラマさんを囲み楽しい時間を過ごすことができました。

「感謝」

加藤 雅子

「ネパール・ミカの会」は私の人生に多くの彩りを与えてくれました。入会の動機は全く単純で自分本位な、ネパールへ行って綺麗な景色が見たい！という事でした。

実際に支援旅行に参加すると、一般の旅行会社のツアーでは絶対経験できない、現地の子供達との交流や笑顔、目の輝きにふれ、そしてルンビニでの牛の糞を家の外壁一面にペタッと貼って乾燥させて燃料にするというその風景に感動でした。

又、毎年参加していた「夢広場」「大道芸」のバザーも好きな活動でした。興味を持って足を止めて、民芸品やリサイクル品を手にとって見てくださる方々との会話等、日常生活では出来ない出会いがありました。楽しい時間でした。そして最後の一番は、会員の皆さんとの出会いと強い繋がりに感謝しかありません。本当にありがとうございました！！

「ミカの会」の思い出

児玉 増夫

ミカの会に入会した切っ掛けは西澤さんからバザーのお手伝いを頼まれたのが始まりでした。焼きそばの炒め方、味付け方法等皆様から教えて頂きながら焼いたものです。実に、楽しい時間でした。皆様の暖かい対応を受け、これまで会員、理事として活動してまいりました。

理事としては、協力的でない一面を見せてしまった事もありました。自分の忙しさを前面に出し対応した面もあった様な気がします。今となって大変申し訳ないと思っています。

ネパールに行かせて貰った事が何よりの良い経験となりました。改めて感謝もうしあげます・

ネパールの実情が肌で感じ取れた事がなによりと思っております。仕事で海外出張は経験ありましたが、ネパールへの渡航は現地会員の手厚いサポートがあり楽な気持ちで現地視察ができたと思っております。

今回、ネパール・ミカの会が解散となり残念な思いであります。これまでの繋がりを大事にしつつお付き合いをしたいと考えております。最後に、これまで会を纏めて頂いた理事長、副理事長には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

「28年前の思い出」

中野 千恵子

NPO 法人ネパール・ミカの会はついに終了？・・・
28年前は私は趣味で山登りをしていた。一度で良いからネパールのエベレストやヒマラヤ山脈を見たいと思っていた。
一緒に山登りをしていた友達に坂さんを紹介された。しばしばネパールに行っているようだ。

ちょうどヌルブ・ラムさんが日本に初めて来日していた。
坂さんに山のガイドとして連れて行って欲しいと頼まれ、私と友達二人と甲斐駒ヶ岳に登る事になった。
真夜中に町田を出発し広河原で仮眠。翌日、バスに乗り北沢峠へ。テントを張り甲斐駒ヶ岳へと山を進んだ。ラムさんは頂上付近で道はあるのだが、真っ直ぐに登ろうと誘い登っていく。私たちも四つん這いになり真っ直ぐな崖を登った。まもなく山頂。バンザイ。ラムさんは帰りの山道もハミングしながら。私たちはハアハアしているのに。

日本語もペラペラだし、テントの張り方、しまい方もスムーズにして貰った。本当に楽しい山旅が出来た事に感謝しました。

この様な素直な青年がいますと思い、直ぐにミカの会に入会した。それからは毎月の例会やバザー等、自分の出来る範囲で活動を手伝ってきた。あつという間の28年でした。会員の皆様本当にありがとうございました。感謝します。

☆☆☆ ラマさんと初島・箱根親睦旅行 ☆☆☆



「ホットしてます」

加藤 誠一

5月8日から18日までラムさんが来日。
最初の問題はラムさんの来日ビザが予定より時間がかかったのでハラハラドキドキ。招聘状の担当なので心中を察していただきたい。無事に来日したのですがマレーシア航空が8時間以上の遅れ。成田からのリムジンバスがない時間に到着。荷物が多いので電車の移動では大変なので知恵を絞る。そう、成田から羽田空港そして町田へ。リムジンバスの乗り継ぎが一番楽そうなので、ネットで時間、乗り場を指示しながらラムさんを誘導する。結果としてロス時間なしで町田に到着、会員の出迎えを受けました。

9日はグランベリーパーク散策後に会員のお店「シャンティ」で紅茶とカレーランチでの歓迎会。
10日は理事会出席後、新川会員と橋本で会食。
11日・12日は親睦旅行。これがまた大変な事に。
ジェットフェリーで伊豆大島一泊旅行の予定でしたが、まず荒天のため出航予定が決まらず待機、乗船2時間前に出航すると連絡あり、ではと港に向かい出発したのですが乗車していた小田急線が人身事故でストップ。
振替輸送などいろいろ調べるが結局間に合わないの船舶会社に事情を説明キャンセル。

会員も諦めきれず宿泊先を探す当日となるとなかなか難しい。そんなところに不参加の会員から救いの手が……。エキシブ初島はどう？費用のこともあるがこの際お願いする事に。

さあ、急いで町田駅に戻り小田原経由で熱海駅。ギリギリ初島行きの最終の船に飛び乗る。

素晴らしい施設に圧倒されながらゆっくり疲れを癒し、翌日は箱根を周遊。帰り際には全員楽しかったの一言。

17日は送別会。多くの会員が駆けつけてくれて本当にありがとうございました。ラムさんも本当に喜んでおりました。
18日。いよいよお別れの時。バスセンターのリムジン乗り場で見送る。ラムさん長い間ありがとう。気をつけてネパールに戻ってください。

ミカの会との出会いは息子達の幼稚園の園長先生だった齋藤理事長、それにこれまた息子達の小学校のPTA 会長さんだった和田さん、そして歯の治療でお世話になった故今村副理事長のお三方がミカの会に関わっていると知ったのがきっかけでした。

そしてミカの会が尾根緑道でバザーをやっていると聞いて覗いてみました。坂さんと和田さんがネパールの民族衣装を着て歩いている姿がとても印象に残っています。その時に和田さんに“私でもお役に立てる事がありますか？”と尋ねたら“もちろんよ！”と云われて入会しました。ミカの会創立から2年位遅れて入ったので、あれから26年位経ちました。

2000年頃から段々バザー出展が増えて来て、事前の準備や会場への搬入、搬出などで朝早くから夕方迄、皆で連携して頑張りました。又どういう訳かお金の計算など向いていない私が、行きがかりで会計を引き受ける事になり、長年に渡り売上の計算や会計報告をして来ましたがいまだに不思議な気がします。

ネパールに最初に行った当時は空港を一步出た途端に、子ども達がわあっと寄って来て”100円頂戴”とか”ボールペン”とかねだられてビックリしましたし、ルンビニの貧しさには心が痛みましたが、お釈迦様の生誕地でもあるルンビニ公園やタライ平原のゆったりとした時の流れ、田舎独特の自然環境の豊かさに魅せられて、ああ又、次回もバザーや助成金などを集める支援活動を頑張るルンビニに行きたいなあと思う様になりました。

支援旅行のかたわら、ボカラのダンプスにトレッキングして見えたアンナプルナ山群の素晴らしさやナガルコットのホテルから眺めるヒマラヤの美しい山脈、そしてチトワン野生動物公園で、象に乗って公園内の猿やサイなどの野生動物を眺めたり、舟に乗って色んな野鳥を観察したりと、思い出は尽きません。

ただ、20数年も支援活動が続けていると、お仲間の先輩方が高齢になってきて、病気になられたり、亡くなられた方も出て来て活動人数がぐっと減ってしまい、ここ数年残った人達でバザー出展を減らし、手のかかる食バザーは止めるなどして、何とか支援活動が続けて来ましたが、その主要メンバーも80歳に手の届く年齢になり、NPO法人を閉じて気楽な任意団体に戻して、今の自分達に合った何かささやかな活動が出来れば良いかなと皆で解散を決めました。

長年、ネパールの支援活動が生活の一部を占め、会計関係の書類やミカの会関係の印刷物が自宅の棚や引き出しの中に沢山残っていて、まだまだ自分の中で気持ちの整理が出来ないですが、それこそ、ビスタリ、ビスタリでゆっくり片づけていこうと思っています。そして愛すべきネパールヘルンビニへいつかまた行ける日が来ることを信じて、一旦はさようなら、ペリ ベトウンラ（また会いましょう）



立つ鳥跡を濁さず。お世話になったこもれび堂の整理です

永い間活動を続けてきたミカの会が、法人の解散を決めたことは本当に感慨深いことです。

私とネパールの出会いは、山岳カメラマンとしてヒマラヤを撮り続けていた弟が日本の氷壁で亡くなった1994年でした。弟が撮ったヒマラヤの山々を自分の目で見てみたい、弟のことをもっと知りたいとの思いでネパールに出かけたのでした。

その後「遺作写真集ヒマラヤ」を通して齋藤理事長と出会い、ミカの会の教育支援の旅また家族と様々なエリアのトレッキングを重ねるうちにネパールとは切っても切れない縁ができました。

“ささやかに心を込めて手から手へ”をモットーに現地を訪ね、交流しながら良い関係を築いてきたことが会の活動を永く続ける力になっていたと思います。

お陰様で94歳まで一緒にネパールを旅した母トキの人生とも重なって、ワクワクドキドキする私の生きがいになりました。反省点は沢山ありますが、悔いのない人生を歩めたと思えることは幸せです。

会に誘って下さった理事長、現地で要となって活動を進めて下さったラマさん始め本当に沢山の方々にお世話になりました。出会えた皆様への感謝をしみじみと感じているこの頃です。



【編集後記】

NPO 法人ネパール・ミカの会が解散しました。最後の会報になります。突然のように感じる会員もいらっしゃると思いますが数年前から検討してきました。始めるのも大変ですが綺麗にしておしまいにするのもエネルギーが必要です。年内HPもLINEも御覧なれます。会報などのデータが必要な方は早めにダウンロードしておいてください。発足以来28年間会員の皆様のご支援、ご協力ありがとうございました。ネパールの子供たちの顔を見にまた行きましょう。

加藤 誠一